

支援の輪拡大が課題

前衆議院議員 大前 繁雄

平素は何かとお世話になり、大変ありがとうございます。

早いもので娘、大前はるよが県会議員に当選させていただいて、半年が過ぎました。25歳で県会議員というのは、少し若すぎるという不安もあったのですが、この半年の活動振りを見てみると、そのような懸念も吹っ飛んだ気がします。

とりわけ、大きな会派なら先輩議員がすべて処理してくれる、知事への「重要政策提言」とか「予算編成に対する申し入れ」を、無所属議員ということで、当選直後から自分で懸念しながら取り組んだこと。さらに12月には、早々と本会議場での一般質問に立つなど、この半年間、集中的に試練を克服して行ったことが、大きな成長につながったように思えます。

しかし、まだまだ一人前の県会議員というには未熟で、一層の切磋琢磨が望されます。とくに、本選挙を見据えた後援会作りは全く手つかずです。これまで、私の後援会の皆様に大きく依存してきた「支援獲得活動の輪」を、今後は自分自身の力でもっと大きく広げてゆく必要があります。

とくに自分と同じ若い層の支持拡大が課題と思います。

「一日も早く、県民そして市民の皆様のお役に立ちたい」と、日々、全力投球する大前はるよに、ぜひ皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

平成21年12月10日、兵庫県下の最年少議員として一般質問を行いました。

[兵庫県議会 一般質問]

授産施設・小規模作業所のイベント等への参画について

【大前議員】兵庫県は、障害者施設への優先発注制度の実施や授産活動アドバイザーの派遣など、さまざまな努力をしているが、今後、財政的支援だけでなく、各施設の自立に向けた側面的支援を考えていかなければならない。

- 売れる商品開発の為の取り組み、支援が必要である。(例／学校連携による商品の共同開発)
- 授産施設や小規模作業所が、県などのイベントにもっと参画できるようにしていくべきである。



定例兵庫県議会 一般質問(平成21年12月10日)

【井戸知事】授産施設の製品の販売拡大のためには、生産品の質の向上とともに、安定した販路の確保が必要である。優先発注制度を実施したり、特色ある新たな商品づくり、指摘のイベント等での共同販売での取り組みなどは大変有効なものだと考えている。また、大学と連携して商品を開発する「スイーツ甲子園」と銘打った製菓商品コンテスト、これを来年の2月、神戸市内で開催する。安定的な販売をめざして物産イベントへの参画を進め、企業内での置き菓子販売、あるいは大型量販店での定期的販売の拡充などを進める。

地産地消を促す取り組みについて

【大前議員】兵庫県の農作物の調査の基となっている国の市別生産量の算出が取りやめられたそうだが、地域によって農林水産業を取り巻く環境が大きく異なる我が県において、地域ごとのデータというのは今後も必要であると考える。

- 地産地消を促す為にも、地域ごとのニーズを把握するために、県独自でデータ収集を行ってはどうか。(例・福井県のような、流通や消費を中心とした、地域ごとの地産地消の状況を把握する新しい取り組み)



【井戸知事】統計調査とは別に農産物直売所、農産加工品、都市と農山漁村の交流人口などを中心として地産地消の推進成果を検証するため、毎年調査し、地域別にデータを集計・分析して実態把握を行ってきた。現在、農林水産ビジョンの見直しを行っており、社員食堂や病院給食の県産品使用割合など新たな指標としてのデータが必要となる項目については、定期的に調査・分析して、県民にわかりやすく情報を発信していく。

大前はるよの一般質問・動画はこちらから

<http://www.hyogokengikai.jp/broadcast/rokuga200912.html>

兵庫県議会では、本会議等の映像をインターネット配信しております。是非ご覧ください。

海上スポーツなど海を生かした観光の推進

【大前議員】兵庫県には南北の海という観光資源に恵まれている。このような魅力ある海を生かした観光の推進について、これまでの取り組みや将来展望に関する考えをお伺いしたい。

- 県などが行うさまざまな海辺のイベントと海上スポーツの大会を組み合わせて実施し、県の観光キャンペーンの中にも取り入れることで、「兵庫県のオントリーワン」といえるような観光の目玉を作りはどうか。(例／ドイツ・キールのヨットパレード)

【井戸知事】観光資源である海を活用したイベントは「あいたい兵庫デスタイルーションキャンペーン」での企画も含め積極的に行っており、商品開発も行っていている。あわせて、全国規模のセーリングカップが開催されている新西宮ヨットハーバーもあり、山陰海岸も、世界ジオパーク認定に向けて大きく動き出すなど、海を核としたツーリズムは将来さらなる発展の可能性を秘めている。今後とも関係機関と連携して、海の魅力を満喫できる多彩な取り組みを推進していかたい。



2009 海の甲子園

西宮市南部の渋滞解消対策について

【大前議員】今年9月に策定された「渋滞交差点解消プログラム」により、平成25年までに全県渋滞交差点の半減を目指すとしているが、西宮市南部では、指定の渋滞交差点以外にも、甲子園九番町交差点のように日時によっては大変混雑している箇所が見られる。また、平成22年度末には阪急今津線の高架が完成予定となっており、球場前踏切部及び高松町交差点の交通処理の円滑化が必要であると考えるが、西宮市南部のこのような交差点に対する取り組みも含め、「渋滞交差点解消プログラム」に対して、今後、どのように取り組んでいくのか。

【河野県土整備部長】最新の渋滞実態調査を踏まえ、西宮市南部では鶴林寺町、今津出在家町の2か所を選定した。高松町交差点については、西側で阪急今津線の高架化事業を実施しており、東西方向の直進が可能になることに加え、市事業により球場前線に右折車線が設置されることから交通の円滑化が必要となる。甲子園九番町交差点については、西側で歩道リニューアル工事を計画しており、その中で臨港線の車線を増設することにより、混雑の解消を図ることとなる。また、街路事業や歩道整備等を実施する際には、既存交差点のさらなる渋滞緩和にも配慮するなど、さまざまな面から、安全で円滑な交通が確保されるよう努めていきたい。

県立高等学校の教育改革について

①県立高等学校の入試制度について

【大前議員】高等学校教育改革の推進によって、普通科高校の総合選抜がすべて複数志願選抜に変わったが、定着を図る中で現在、把握していると課題と検討されている改善策をお伺いしたい。

- 複数志願選抜ではない学科、特に定員の少ないところは志願を敬遠されやすい傾向があるのではないか。
- 学区の見直し、第一志望加算点の妥当性について検討を求める。



【大西教育長】専門学科、総合学科、単位制普通科においては、推薦入学と学力検査の2回を受験できる機会がある一方で、学年制普通科は学力検査だけの受験機会となるため、第2志望校及びその他校の志願が可能となる複数志願選抜を実施している。一部の学区では複数志願選抜への安心感から、専門学科や総合学科への志願を控える傾向が見受けられることは承知している。また、複数志願選抜の第1志望加算点については、検討委員会を毎年開催しており、引き続き適正な加算点の設置に努める。学区の見直しと合わせ検証を行い、一層の取り組みを進めること。

②高等学校の学科の再編について

【大前議員】県立西宮高校の単位制移行に伴う国際経済科廃科について、地域に開かれた信頼ある学校をめざした学科改編の在り方について問う。

- 生徒や保護者に対する説明の順序、内容、方法など見直すべき。
- 単位制普通科への移行により、専門学科だからこそ可能であった進学と資格取得を両方叶えることが難しくなるのではないか。

【大西教育長】阪神地域に新たに単位制高校の設置が必要であり、国際経済科の生徒の商業系以外の多様な進路希望や学習ニーズにこたえる教育課程の設置が求められていた為、平成23年度から単位制に改編し、国際経済科と普通科を統合することになった。この国際経済科は、商業に関する資格取得やインターンシップなどの体験活動を通じた人材育成などにおいて、これまで成果を上げてきたことから、国際経済科と普通科を統合する際には、国際経済科のよさを生かしていくことが重要であると考え、現在、このような観点も踏まえ、改編後の教育課程の編成について検討作業を進めている。引き続き、関係者等の理解を求める取り組みを行っていきたい。

再質問

【大前議員】確かに科目は多様化されるが、県が掲げているキャリア教育の推進という観点から考えると、時代のニーズは教育の複線化ではないか。ニーズにこたえる改編というのであれば、高度専門職人材の輩出を目指したような、学科系統の複線化を目指すべきではないのか。

【大西教育長】学校では効率的な教育を推進するという観点と、そして多様なニーズに対応するということの両方を兼ね合わせる中で、統合することによって、それぞれの中に生かせるような形を持っていくというのが最もふさわしいと判断したためである。